

# いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

## 三陸復興

第52号  
(平成25年11月15日号)  
岩手県

### 復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。震災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

短かった秋が過ぎ、岩手県にも初雪がちらつき冬の訪れを感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します。

## いわて三陸復興フォーラム が開催されました ～新たなふるさとづくりに向けて～

大船渡市

11月2日(土)、「いわて三陸復興フォーラム」(主催：岩手県)が、大船渡市民文化会館リアスホールで開催されました。

このイベントは、「参画とつながり」がテーマ。沖縄からのゲスト「那覇太鼓」による演舞で会場が盛り上がる中、千葉副知事が「来年度から本格復興期間の3ヶ年が始まる。若者・女性等の参画、多様な主体が連携・活動するつながり、地域社会の持続性を掲げ、復興の取り組みを加速させていきたい」と挨拶。

第一部の基調講演は、「復興の新たなステージにパワー全開で取り組もう！」と題し、一般社団法人RCF復興支援チーム代表 藤沢烈(れつ)さんが、「3年目こそ復興の始まり。復興のためには知ることや参加することが大切」と訴えました。

続いて行われた第二部では、三陸沿岸各地でまちの

活性化等に取り組む関係者によるパネルディスカッションが行われ、復興に対する取り組みや、活動の中で生まれた交流、人と人のつながりの大切さ等が発表されました。

エンディングライブでは、松本哲也さん、濱守栄子さんが三陸への想いとともに歌声を披露し、来場者の心をつかんでいました。

県では、12月19日(木)に愛知県名古屋市で「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」を開催予定です。引き続き、継続的な支援や参画とつながりの促進を図っていきます。



那覇太鼓の演舞の様子



藤沢烈さんによる基調講演



パネルディスカッションの様子

11月4日(月)、釜石市の鵜住居(うのすまい)町の特設会場で、都市基盤整備事業の安全祈願祭が行われました。

これは、東日本大震災津波で多くの方が犠牲になった、釜石市片岸(かたぎし)、鵜住居両地区の土地区画整理事業と、小中学校などの施設を高台に建設する鵜住居地区の津波復興拠点整備事業の工事の安全を祈願するものです。

土地区画整理の着工は市内で初となるもので、対象面積は約82.5ヘクタール、総事業費はおよそ180億円。三陸縦貫道工事で発生した土砂などを活用し、平均で1~2メートルの盛り土(かさ上げ)を実施する予定で、地権者の起工承諾を得られた区域から着手します。

事業は、設計、施工、管理などの業務を一括発注する「コンストラクション・マネジメント(CM)方式」を採用し、工事の透明性、事業費

◆◆◆◆◆  
片岸・鵜住居地区の  
復興まちづくりが  
本格スタート  
釜石市  
◆◆◆◆◆  
都市基盤整備事業の安全祈願祭

の削減、迅速化が図られます。

式典に参加した野田武則釜石市長は「ふるさとの復活、再生の思いの中、安全祈願祭を迎えることができた喜びは大きい。地域の皆さんの期待に応えられるまちに生まれ変わることを願う」と話しました。

土地区画整理事業は2019年3月、津波復興拠点整備は2016年3月の完了を目指します。



安全祈願祭の様子



被害の大きかった鵜住居地区

### いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索



# 「未来のふるさとへの想い」をケーキに 大槌小学校6年生がケーキ作りに挑戦！

大槌町

10月29日(火)、大槌町立大槌小学校で、同校6年生の生徒90名が、「夢ケーキ」作りに挑戦しました。

このイベントは、今年9月に行われたワークショップ「ふるさと大槌・夢ケーキワークショップ(※)」で、生徒が想い描いたイラストをもとに、本物のケーキである「夢ケーキ」を作りあげるもの。

当日は、県内外のパティシエ及びスタッフ、計15名が駆けつけ、ケーキ作りを指導。生徒たちは12のグループに分

かれて作業を開始。マジパン(アーモンドをすりつぶし、色づけした砂糖を混ぜて半固形状にしたもの)を使い、きれいな海や川、にぎやかな街並み等、それぞれが想像した未来の大槌の姿をスポンジケーキに飾り付けしました。

また、ケーキ作りと併せて、生徒全員がマジパンで「自分の夢」を造形して発表。みんなで完成したケーキを食べ、将来の夢を語る楽しいひとときとなりました。



「夢ケーキ」作りの様子

※ワークショップの様子は、第49号(平成25年10月1日号)をご覧ください。



子どもたちの描いたイラスト①



完成したケーキ①



子どもたちの描いたイラスト②



完成したケーキ②

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第9回目は、池一恵さんを紹介します。

## PROFILE

福岡県福岡市出身。大学進学のため上京。卒業後は、憧れていたテレビ業界に就職し、3年間バラエティ番組の制作に携わる。

東日本大震災津波発災後、自分も被災地で活動したいと思い、2013年4月から「いわて復興応援隊」として久慈商工会議所に勤務。観光振興、地域や商店街のイベント等、地域活性に取り組んでいる。

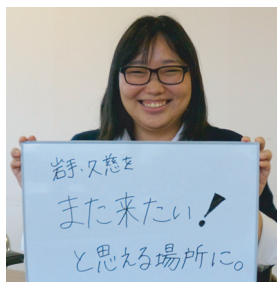
## 自分も行動を起こさなければと決意

東日本大震災津波発災当時、東京のテレビ局で働いていた池さんは「仕事もあるし、被災地に行くことができないという、もどかしい気持ちはずっと続いていた」と当時を振り返ります。

働き始めて3年という節目を迎え、自分も行動を起こさなければいけないと思う中、岩手に

# 未来の さんりく びと

久慈商工会議所  
池一恵  
(いけひとみ)さん



池さんからのひと言：  
岩手・久慈を  
また来たい!と思える場所に。

移り住んで、そこで働くという「いわて復興応援隊」の仕事を知り、「これしかない」と思い応募したそうです。

久慈をはじめ、岩手県が  
明るくなることも“復興”

現在、池さんは、久慈商工会議所の中で観光に関わる仕事をメインに、観光客の方が気持ちよく久慈を楽しんでもらえるような受け入れ態勢の整備等に携わっています。

「久慈は、震災の被害もそれほど多いところではないので、観光面でしっかりと地域を盛り上げたい。「あまちゃん」放映のおかげでまちも明るくなった。岩手の人は、物腰がやわらかく、あまり自己主張しないという面もあるようですが、住民の方々の意識を“まちを盛り上げる”方へ向けていきたい。久慈をはじめ、岩手県が明るくなることも“復興”だと思います」と、これからの久慈と県の未来への意欲を語りました。

## 岩手県の被害状況

平成25年10月31日現在

- ▶人的被害 死者：4,672名 行方不明者：1,144名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,023棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

## 皆様のご支援、ありがとうございます

平成25年9月30日現在

- ▶義援金受付状況 約178億4,914万円(86,753件)
- ▶寄付金受付状況 約166億1,792万円(6,310件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約59億6,433万円(11,139件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富に【いわて復興だより [Web](#)】がスタートしました。 <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第52号 平成25年11月15日 企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス